

主な施策の取組状況

重点戦略2 強みを伸ばす



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ 第3回とちぎの農業農村整備事業における営農構想発表会を開催

- 農業農村整備事業の計画地区において、実効性のある営農構想の作成が進められるよう、各地域が作成した営農構想の発表会を開催しました。
- 令和7(2025)年に新規採択を予定する5地区の代表者が、パネルディスカッション形式により、農業法人の育成や農地バンクの活用等の取組を発表しました。
- 今後も、各地域の課題解決に向けて、営農構想の作成やその実現に必要な支援をしていきます。



発表会の様子



塚崎・田間地区の構想

(農地整備課)

○ 次世代型生産基盤技術の導入推進(河内地域)

- 上三川町上郷1地区では、将来にわたって担い手が活躍できる生産性の高い基盤づくりを目指し、水管理システムや排水路の暗渠化等の次世代型生産基盤技術を導入した基盤整備を計画しています。
- 実際に次世代型生産基盤技術を導入して営農している地区の結果を参考に、明らかとなった課題や留意点等を整理し、地域として何が必要かを市町や農業者等と検討し、導入を推進していきます。



地元説明会



水管理システム

(河内農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ WCS水稲直播の拡大(上都賀地域)

- ・ 稲WCSの生産・利用拡大を図るため、直播技術を取り入れ、育苗の省力化、低コスト化に取り組んでいます。
- ・ 大室WCS部会において、乾田直播及び無コーティング種子代掻き同時播種に取り組んだ結果、移植栽培の9割の収量が確保されるなど、水利の良いほ場では省力化効果が高いことが実証されました。
- ・ 直播栽培は、稲WCS生産の省力化に有効な技術であることから、規模拡大を図ろうとするコントラクター等へ導入を推進していきます。



乾田直播作業



稲WCS収穫作業

(上都賀農業振興事務所)

○ 高温対策技術と組み合わせた「とちぎの星」の作付拡大(上都賀地域)

- ・ 近年、夏場の高温による白未熟粒の発生やカメムシの吸汁による米の品質低下が問題となっています。
- ・ 日光市の担い手ネットワーク組織「米米くらぶ」では、高温耐性の高い「とちぎの星」の導入やドローンによる殺虫剤の2回散布、土壌診断に基づく施肥量の削減などの試験を実施し、その結果を踏まえ、「上都賀版とちぎの星栽培マニュアル」を作成しました。
- ・ 次年度に向けて、構成員全員が「とちぎの星」を更に拡大する予定です。



米米くらぶによるマニュアル検討風景



上都賀版「とちぎの星」栽培マニュアル

(上都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ 農業の生産性の向上や省力化を図るために「スマート農業研修会」を開催(芳賀地域)

- 芳賀地域の土地利用型農業におけるスマート農業技術の活用を推進するため、農業者向けの研修会を令和6(2024)年度に2回(8月、2月)開催しました。
- 8月の研修会ではRTK-GNSSとその利用に関する講演、2月の研修会では自動操舵トラクターの実演等を行い、合計約150名の参加がありました。
- 令和6(2024)年12月に真岡市でRTK基地局が整備されたこともあり、参加者が熱心に質問をする姿が見られ、関心の高さが伺えました。今後も、研修会等の開催を通じた普及推進を図っていきます。



農研機構職員による講演会



実演会の様子
(芳賀農業振興事務所)

○ 「とちぎの星」作付拡大に向けた研究会活動の活性化(芳賀地域)

- 二宮地区と茂木地区には、水稻生産者等で構成される「とちぎの星研究会」があり、品質向上等に取り組んでいます。
- 令和6(2024)年度、研究会では土づくり肥料施用による品質向上を目指した取組を実施しました。また、研究会員同士でお米の食味を確認し、今後の食味向上につなげるため、食味評価会を開催しました。
- 今後、研究会では食味が向上する栽培技術の実証に取り組む予定です。



土づくり肥料が入った展示ほ



食味評価会

(芳賀農業振興事務所)

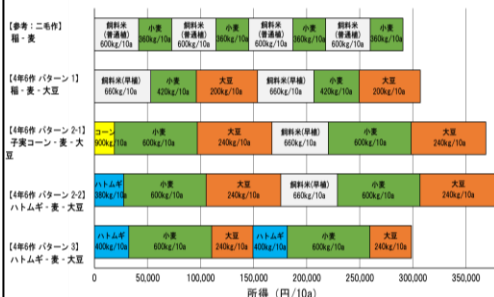
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ 持続可能な土地利用型経営体の育成と下都賀型輪作体系の推進(下都賀地域)

- 持続可能な土地利用型経営体の育成に向けて、水田農業の高収益化を目的に、畑作物を中心とした4年6作体系(下都賀型輪作体系)を推進しています。
- 令和6(2024)年度は、経営体への理解促進に向けたセミナーを2回開催しました。サマーセミナーでは、水田農業の現状・課題の共有や下都賀型輪作体系の提案、ウィンターセミナーでは県外優良事例の講演や農業者同士の意見交換を行いました。
- 今後、モデル事例の横展開や農地集約化等により、持続可能な水田農業を推進します。



下都賀型輪作体系における収益性モデル



サマーセミナーの様子
(下都賀農業振興事務所)

○ 種子生産「小麦から二条大麦への麦種転換」(塩谷南那須地域)

- JAしおのや喜連川地区麦種子生産部会では、二条大麦「もち絹香」の需要増加に対応するため、令和7(2025)年産から当品種の種子生産を始めました。
- 初めて栽培する品種のため手探りのことが多く、施肥体系の試験ほを設置し、各生育段階で部会員や営農指導員とともに調査を行いました。
- 今後とも、関係者とともに優良な種子生産に向けた技術の確立に取り組んでいきます。



基肥施用の状況



生育調査の様子(2月)
(塩谷南那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

① 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大

○ 土地利用型経営体の経営改善や効率化に向けたスマート農業研修会の開催(安足地域)

- ・ スマート農業技術を活用した効率的な地域農業の発展を目的として、「安足地方スマート農業研修会」を開催しました。
- ・ メーカーによる「ザルビオフィールドマネージャー」の紹介と「可変施肥田植」の実演を行いました。参加者からは、「導入を検討したい」、「生産効率が上がりそうだ」などの前向きな意見が多く寄せられました。
- ・ 今後もスマート農業技術に関する情報を発信し、農作業の効率化や省力化を目指していきます。



研修会の様子



可変施肥田植の実演

(安足農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ スマート農業・農業DXの加速化に向けた「推進担当者会議」及び「実践拡大研修会」を開催

- ・ 将来の担い手の大幅な減少が予測される中、スマート農業・農業DXの導入を更に加速するため、「栃木県スマート農業・農業DX推進担当者会議」を開催し、市町やJA等の関係者と現状や課題を共有しました。
- ・ また、先進事例や導入効果を実践者から学ぶ「栃木県スマート農業・農業DX実践拡大研修会」を開催しました。
- ・ 今後は、スマート農業・農業DX導入に向けた更なる機運醸成を図るため、新たな推進会議の設置などにより、推進体制の整備を進めていきます。



推進担当者会議



研修会の様子
(農政課)

○ 気象変動に対応した高冷地ほうれんそう産地の支援(上都賀地域)

- ・ 高冷地ほうれんそうは日光市を代表する園芸品目ですが、近年の気候変動による猛暑の影響を大きく受け、収量や品質の維持が困難な状況が生じています。
- ・ そこで、国庫補助事業を活用した遮熱資材の導入を支援するとともにその導入効果の検証や品種比較試験などの高温に対する技術対策を行いました。
- ・ 令和7(2025)年度も引き続き事業を活用し、さらなる夏期の収量及び品質の向上、販売額の増加を支援していきます。



遮熱有ハウス



実証展示ほ現地検討会
(上都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ ハウス遮熱塗布剤の導入推進に向けた現地検討(上都賀地域)

- 近年の夏場の高温は、花き生産において、生理障害や奇形花の発生、病虫害の増加による品質・収量の低下が懸念されています。
- このため、スプレーマムにおいて、ジャパンプラワー強化プロジェクト推進事業を活用した遮熱資材の効果検証を行いました。また、鉢物部会では、導入生産者のほ場で現地検討会・学習会を開催し、高温対策について活発な意見交換が行われました。
- 今後は、費用対効果の検証も行いつつ、導入効果の高い高温対策技術について普及を図っていきます。



遮熱塗布したハウス



現地検討会
(上都賀農業振興事務所)

○ 令和7年産「とちあいか」の栽培面積が全体の80%を超える(芳賀地域)

- 生産者・JA・市町とともに策定した「芳賀地域115(いい・いちご)戦略」に基づき、収益性の高い「とちあいか」の作付け拡大を図っています。
- 令和7(2025)年産は栽培面積141.7 ha(面積割合80.2%)、栽培戸数 447戸(前年産+151戸)に増加し、「とちあいか」の栽培面積が全体の80%を超えました。
- 県内一のいちご産地である芳賀地域において「とちあいか」の品質・収量の高位平準化を進めるため、引き続き、栽培技術の確立に取り組んでいきます。



とちあいか現地検討会



とちあいか新規栽培者講習会
(芳賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ いちご苗(フリー苗・リレー苗)供給体制の強化支援(下都賀地域)

- いちご栽培では健苗を育成することが重要であることから、管内では、二つの基地で無病苗(フリー苗)を育苗・増殖し生産者へ供給しています。病虫害の防除、生理障害対策など生育の指導支援を実施し、要望に対し100%供給することができました。
- 一方、新規生産者などに直接定植苗(リレー苗)を供給する体制整備については、需要調査を実施するほか、補助事業活用により生産施設を増加するなどの支援を行い、8万株を超える供給実績を上げました。
- 今後は、近年の高温化を視野に置いた健苗育成の支援を進めていきます。



無病苗基地の増殖風景



増設したリレー苗育苗ハウス
(下都賀農業振興事務所)

○ 梨の高温対策の取組(下都賀地域)

- 令和5(2023)年度のなし晩生品種(「にっこり」、「新高」)等において、夏季高温による果実への日焼け等の障害が発生したため、技術対策に取り組みました。
- 令和6(2024)年度は、県農業総合研究センター、安足農業振興事務所と連携し、実証展示ほを設置した結果、枝の密度を高めることや黒色の被覆資材使用することで重度の障害発生が減少しました。また、セミナーを開催し、生産者に試験結果と今後の対策について講演しました。
- 今後、かん水方法や施肥管理などの対策技術の確立に向けて取り組んでいきます。



実証展示ほの枝の
密度を高めた区の様子



セミナーの様子
(下都賀農業振興事務所)

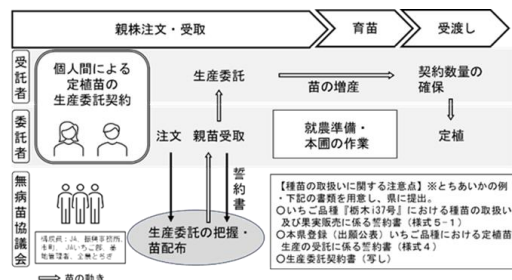
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ いちご定植苗の供給を開始(塩谷南那須地域)

- 新規栽培者の円滑な就農や育苗作業の分業化を図るため、いちごの定植苗を安定して供給する体制づくりを進めました。
- 南那須地域では、部会員による新規栽培者向けの定植苗供給体制を整備し、塩谷地域では、1名が令和8(2026)年産の定植苗の受託生産に取り組むこととなりました。
- 今後、受託者の更なる掘り起こしを行うとともに、定植苗を希望する全ての生産者に供給できる体制づくりを進めます。



定植苗の受委託生産のフロー図

(塩谷南那須農業振興事務所)

○ スプレーマム産地の活性化に向けた研修制度や新技術導入への支援(塩谷地域)

- 空きハウスの有効活用と新規栽培者の確保・育成を目的に、生産者や関係機関・団体により「塩谷スプレーマム担い手確保育成協議会」を令和6(2024)年1月に設立しました。
- 現在、地域おこし協力隊2名を研修生として受入れ、独立開業に向け、計画的な育成を進めています。
- また、緑LEDによるヤガ類防除効果の確認や、燃油高騰への対応として変温管理の検討を行うなど、グリーン農業の推進や経営改善に向けた取組を行っています。



花き卸売市場視察



緑LEDの設置状況

(塩谷南那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ アスパラガスの産地強化(那須地域)

- 出荷調整時の労働力不足の解決に向け、補助事業の活用により整備した「選別施設」が令和6(2024)年7月に稼働し、選別作業における分業化の取組が開始されました。
- 12月には「アスパラガス高収益セミナー」を開催し、作業性に優れる「枠板式高畝栽培」や未来の農機「ロボット収穫機」の開発成果について講演しました。
- 今後は、分業化の取組を検証するとともに、余剰労働力の有効活用による規模拡大(単収向上・早出し作型導入等)を推進していきます。



選別施設の内部



高収益セミナー

(那須農業振興事務所)

○ 剪定枝を利用したなしの花粉確保に向けた実証(那須地域)

- 中国産花粉が輸入停止となり、令和6(2024)年産のなし花粉が不足することから、国庫補助事業を活用し、剪定枝のハウス加温によるなしの花粉確保の実証に取り組みました。
- 令和6(2024)年3月、豊水の剪定枝5,659本を水稻育苗ハウスで生育促進させることにより、露地より5日程度早く開花させ、181gの花粉が採取可能であることを実証しました。
- 今後は、花粉専用品種の栽培の推進や、花粉確保融通体制の確立等により、高品質果実の安定生産と更なる生産者の所得向上が期待されます。



剪定枝の採取



ハウス内での花粉採取
(那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 災害に強い産地づくり(那須地域)

- 夏季高温などの気候変動に伴い増加している農業気象災害への対応力を強化するため、防災対策の支援を行っています。
- 日塩ほうれんそう暑熱対策研究会に加入するほうれんそう農家において、暑熱対策に向けた遮光ネットの効果検証を実施しました。さらに、那須野農業協同組合いちご部会において、農業版BCPの取組を推進しました。
- 今後も、産地の持続的な発展に向け、気象災害への対応力強化を支援していきます。



遮光ネットを設置した
ほうれんそうハウス



農業版BCPの推進
パンフレット
(那須農農業振興事務所)

○ とちあいかの普及拡大とリレー苗生産体制の整備(安足地域)

- とちあいかの普及拡大を目的に、現地検討会等で品種特性を説明するとともに、25名の新規栽培者への巡回による重点的な栽培指導を実施した結果、令和7(2025)年産の面積は前年比133%に増加しました。
- また、「佐野・足利地方いちごリレー苗生産協議会」において、良苗生産・供給が着実に実施できるよう、現地検討会や個別巡回による栽培指導を行い、23,800本のリレー苗を供給することができました。
- 今後も、とちあいかの普及拡大を図るとともに、リレー苗の安定供給を目指します。



とちあいかの生産



リレー苗現地検討会の様子
(安足農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

② 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 施設園芸品目における高温対策の推進(安足地域)

- ・ 近年の夏季の高温により、なし「にっこり」では果肉障害、アスパラガスでは単収の低下、トルコギキョウでは短茎開花などの品質の低下が発生しています。
- ・ このため、なしでは果実袋の設置等、アスパラガスでは遮熱塗布剤、トルコギキョウでは赤色LED等について、効果検証を行いました。
- ・ 今後も、高温対策の効果検証や、効果のある高温対策技術の普及を推進していきます。



果実袋の設置



遮熱塗布剤塗布（左側）の様子
(安足農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③ 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

○ 土地利用型園芸マッチング商談会の開催

- ・ 拡大する加工・業務用需要を踏まえ、新たな販売先の確保を図るため、土地利用型園芸産地と食品企業とのマッチング商談会を開催しました。
- ・ 開催にあたっては、事前に食品企業との商談方法や商談後の対応のポイントなどを学ぶ研修を行い、産地のスキルアップを図りました。
- ・ 商談会では、9つの産地と8つの食品企業が、面談形式でお互いの希望価格や納品形式を擦り合わせるなど、熱心な話合いが行われました。
- ・ 今後も、商談会の開催等を通じて、産地の販売力強化に取り組んで参ります。



産地に対する研修会の開催



商談の様子

(生産振興課)

○ 「河内地域さつまいも生産者ネットワーク会議」の設立(河内地域)

- ・ これまで河内地域では、さつまいもの栽培技術や貯蔵技術などの向上に向け、生産者同士のネットワークの構築を進めてきました。
- ・ 先進地視察や情報交換会の開催を通じて、生産者同士の繋がりが強化され、令和6(2024)年10月に「河内地域さつまいも生産者ネットワーク会議」が設立されました。
- ・ 今後、ネットワーク会議を基点として、栽培技術や貯蔵技術などの更なる向上や、自家苗増殖の推進により、産地の拡大を目指していきます。



先進地視察



情報交換会
(河内農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③ 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

○ いも3兄弟プロジェクトの推進(上都賀地域)

- 令和6(2024)年度から、従来のさといもプロジェクトにさつまいもと加工用馬鈴薯を加え、「いも3兄弟プロジェクト」を展開しました。
- さといもは、見学会や推進セミナーを開催し、鹿沼市で面積が64a拡大しました。さつまいもは、日光市で新規栽培者が3名確保され、面積が29a増えました。加工用馬鈴薯については、輪作作物等の検討と併せて面積拡大を推進し、550a増となりました。
- 今後も引き続き、ほ場整備計画地区及び実施地区等を中心に、いも類の作付を推進していきます。



さといもセミナー



さつまいも目揃会

(上都賀農業振興事務所)

○ 若手葉物生産者による経営発展の事例(下都賀地域)

- 下都賀管内では、葉物野菜の栽培が盛んですが、各経営体の規模拡大が課題になっています。
- 壬生町では、親元就農して引き継いだ15棟のハウスから、園芸関係事業の活用や技能実習生の受け入れ、出荷調整作業の機械化等により、現在は100棟を超えるハウス栽培を行うまで経営規模が発展した事例があります。
- さらに、法人化支援により株式会社を設立し、低コストに向けた自社流通も確立できたことから、今後は、この優良事例を横展開し、地域の葉物生産者の規模拡大に繋げていきます。



集荷場



生育中のこまつな
(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③ 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大

○ さつまいもの収量・品質向上に向けた展示ほ結果の活用(塩谷南那須地域)

- ・ さつまいもの収量・品質の向上を図るため、施肥量や防除薬剤など6つの課題を設けて展示ほを設置しました。
- ・ この結果、適切な施肥量や防除薬剤の効果が明らかとなり、現地検討会や販売反省会などを通じて、生産者にフィードバックを行いました。
- ・ 今後、栽培マニュアルの改訂を進めるとともに、肥培管理の徹底を周知し、実需者から選ばれる産地づくりを進めます。



現地検討会



栽培講習会

(塩谷南那須農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④ 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 米超低コスト生産モデルの設置・育成

- 令和5(2023)年度までに、「とちぎの米づくりプロジェクト事業」を活用し、延べ8件の超低コスト生産モデルを設置しました。
- これまでのモデルを検証した結果、現状の経営規模よりも面積を3割以上拡大すると、生産コストが削減することがわかりました。
- 令和6(2024)年度は、ドローン防除と直播栽培の取組や、土壌診断と可変施肥の取組など、新たに3件の生産モデルを支援しました。
- 令和7(2025)年度は、モデルの効果検証を進めるとともに、地域毎のセミナー開催や展示ほの設置により、超低コスト生産を推進していきます。



直播栽培による水稻



ドローンによる防除

(生産振興課)

○ スマート農業に対応した基盤整備の推進

- スマート農業に対応した基盤整備技術の導入成果を関係者と共有するため、実践報告会を開催しました。
- 大田原市荒井町島地区の「ほ場の大区画化」及び「排水路の暗渠化」、益子町益子西部地区の「地下かんがいシステム」の導入効果や、各地区におけるスマート農業の取組状況について報告がありました。
- また、「地下かんがいシステム」及び「農業水利施設のICT化」について、農業者の理解促進を図るため、新たにPR動画を作成し、YouTubeに公開しました。
- 各種技術の導入やスマート農業の実践がより一層進むことを期待しています。



実践報告会



PR動画撮影の様子

(農地整備課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④ 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 畦畔管理技術の利用拡大(上都賀地域)

- 農地の担い手への集積集約化が進む一方で、畦畔管理作業の効率化が課題となっています。
- そこで、効率的に畦畔を管理している事例を管内で調査したところ、大規模経営体によるスパイダーモアやウイングモア、刈払機、ブームモア等の機械活用や、担い手による草刈隊結成など、新たな取組が確認できました。
- 今後は、管内の畦畔管理体制を強化するため、本調査結果を基に事例集を作成し、関係機関及び生産者に広く周知していきます。



ブームモア



ラジコン草刈り機

(上都賀農業振興事務所)

○ 水稻の高温およびイネカメムシ対策の取組(下都賀地域)

- 夏季の高温により、管内の水稻生産は大きな影響を受けています。特に、出穂期以降の高温によって白未熟米や胴割米等の障害が発生しています。また、イネカメムシや斑点米カメムシ類による不稔による減収や着色粒による等級落ちが生じました。
- このため、「水稻品質向上対策会議」を開催し、関係機関で次期作に向けた方針を共有しました。
- また、高温対策とカメムシ対策について、講習会等で具体的な指導を行いました。



不稔が多発して
減収した水稻ほ場



水稻品質向上対策会議」の様子

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④ 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 生産性向上のための機械利用セミナーを開催(那須地域)

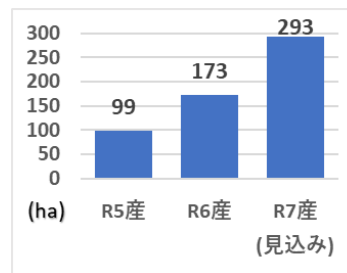
- 令和6(2024)年10月、ほ場条件等に合わせた適切な排水対策技術の導入及びスマート農業技術の活用による生産性向上を図るため、「生産性向上のための機械利用セミナー」を開催しました。
- 各メーカーによる機械の展示を交えた排水対策・技術や栽培管理支援システムについての説明の後、栃木県農業機械士会員から、作業機械点検のポイント等について講義をいただきました。82名の参加者からは、活発な質問等があり、経営改善や農作業安全意識の向上が伺えました。
- 今後も、技術指導や講習会などを通じて、生産者のさらなる生産性向上を支援していきます。



講義及び農業機械の紹介(那須農業振興事務所)

○ もち性二条大麦「もち絹香」の生産拡大を支援(安足地域)

- 本県育成の「もち絹香」は収益性が期待される品目ですが、需要量を満たしていないため、栽培面積の拡大を支援しました。
- 関係団体等と連携し栽培技術の普及を図るとともに、もち絹香流通安定コンソーシアムを通じて需要動向等の情報共有を行った結果、令和7(2025)年産の栽培面積は293haに拡大する見込みとなりました。
- 今後も生産者の所得向上を図るため、需要に応じた生産拡大を支援します。



栽培面積の推移



成熟期の様子

(安足農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 耕畜連携の取組拡大に向けた研修会の開催

- 水田での自給飼料生産の増産を図るため、令和6(2024)年12月に耕畜連携研修会を開催しました。
- 研修会では、稲WCSの品質向上に関する千葉県香取市の取組の講演のほか、県内の耕種農家による飼料生産における堆肥活用等の事例紹介を行いました。
- 研修会では、耕種農家、畜産農家、関係団体ら約120名が参加し、今後の水田における飼料生産等について活発な情報交換が行われました。
- 今後も、耕種農家と畜産農家、双方のニーズに応じたマッチング支援等により、更なる耕畜連携の推進に取り組めます。



研修会の様子



水田での飼料生産の様子

(畜産振興課)

○ 第65回全国家畜保健衛生業績発表会で農林水産大臣省受賞

- 令和6(2024)年9月に開催された第65回全国家畜保健衛生業績発表会において、県央家畜保健衛生所が発表した「クロバエによる豚熱ウイルスの伝播リスク評価」が農林水産大臣賞を受賞しました。
- この度の受賞は、クロバエ体内でのウイルスの生存状況やクロバエの行動を分析するなど、多角的にリスクを検証し、クロバエが豚熱の感染経路になり得ることを導き出したことが評価されました。
- 今回の研究成果も踏まえながら、豚熱の効果的な発生予防に努めていきます。



受賞報告会
(令和6(2024)年11月20日)



クロバエ（食べたものを吐き出している）

(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 林務関係者を参集した野生イノシシにおけるアフリカ豚熱の防疫演習を初めて開催

- アフリカ豚熱は国内への侵入リスクが高まっており、かつ有効なワクチンや治療法がないため、発生した場合の畜産業界への影響は甚大です。
- 特に、野生イノシシで発生した場合、死体の運搬・搜索など、山林内での防疫措置が必要であり、林務関係者や団体の協力が不可欠であることから、茂木町において防疫演習を実施しました。
- 今後も防疫演習等を通じて、関係者への知識啓発・理解醸成を図りながら、アフリカ豚熱の防疫体制を整備していきます。



講演（防疫措置の説明）



死体発見時の運搬演習

（畜産振興課）

○ 畜産におけるバイオ炭の高度利用試験

- 「とちぎグリーン農業推進方針」では、温室効果ガスの排出量削減を目的としたバイオ炭の土壌施用による炭素貯留を推進しています。
- 畜酪センターでは、バイオ炭を土壌施用する前に、牛舎の敷料及び堆肥化の副資材として段階的に活用し、その有効性を確認する試験に取り組んでいます。
- 和牛肥育の敷料（オガクズ）にバイオ炭を20%混合したところ、牛舎内のアンモニア発生量の低減が確認できました。



バイオ炭混合敷料のアンモニア測定



バイオ炭を利用した堆肥化試験

（畜産酪農研究センター）

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

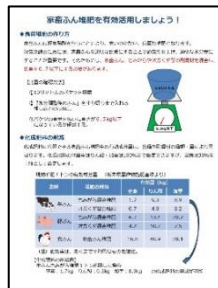
⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 畜産農家と施設園芸農家のマッチング(河内地域)

- 堆肥の有効活用を推進するため、耕畜連携コーディネーターを中心に、施設園芸農家に向けた堆肥見学会を開催し、アスパラガス農家4戸で試験的な利用が始まりました。
- これにより、アスパラガス農家は地域内で堆肥を入手することができ、酪農家は堆肥の提供先を新しく確保することができました。
- 今後も堆肥を提供可能な畜産農家と、堆肥を必要とする農家との連携を支援し、堆肥の有効活用の取組を進めていきます。



アスパラガス農家
での堆肥施用



堆肥の有効活用チラシ
(河内農業振興事務所)

○ 持続可能な農業の実現を目指して、「耕畜連携」を推進(芳賀地域)

- 地域の耕種農家と畜産農家が協力して、持続可能な農業を目指す「耕畜連携」の推進に向け、現地研修を開催するとともに、機械導入などを支援しました。
- その結果、令和5(2023)年度に耕種農家3戸で設立した飼料生産組織(芳賀スカイ)が、地域の酪農家向けに飼料作物(デントコーンサイレージ、稲WCS)の生産を35haまで拡大させました。
- 耕種農家の「農地の効率的な利用」と、畜産農家の「地域で生産された飼料の利用拡大」により、地域農業の持続的な発展が期待されます。



耕畜連携現地研修



事業で導入した収穫機

(芳賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 令和6(2024)年度第2回下都賀地域持続的畜産経営推進会議(下都賀地域)

- 飼料や肥料の価格が高止まりし畜産農家はもとより耕種農家の経営にも大きな影響を与えており、地域をあげて「耕畜連携」の体制構築をすすめています。
- 市町、JA等関係機関・団体を参集し、耕種農家、畜産農家からの取組事例を交えて、「耕畜連携のメリット」や「今後の展望」について発表していただき、さらに、今後の対応方針についてグループ討議を行い、理解を深めました。
- 今後も関係機関と連携し、「耕畜連携」を推進します。



畜産農家による事例発表



耕畜連携コーディネーター
による実績発表
(下都賀農業振興事務所)

○ 堆肥生産者マップによる堆肥活用の推進(塩谷南那須地域)

- 家畜ふん堆肥の活用を促進するため、塩谷南那須地域における堆肥を供給できる畜産農家の情報をプロットしたマップを作成しました。
- マップには活用事例や畜種ごとの堆肥の特性も掲載し、管内の農業者に向け周知・発信しました。
- 今後、作成したマップは農業者の意見を受け適宜改良し、更なる堆肥の利用推進に貢献していきます。



堆肥生産者マップ



地域で生産された堆肥
(塩谷南那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ ペレット堆肥を施用した飼料用米の現地検討会を実施(塩谷南那須地域)

- 化学肥料を低減した飼料用米多収品種の作付けを推進するため、「鶏ふん及び豚ふんペレット堆肥」を施用した「夢あおば」の現地検討会を開催しました。
- 検討会では、3畜種のペレット堆肥サンプルを展示するとともに、堆肥の違いによる「夢あおば」の生育状況を当事務所から報告しました。また、ペレット堆肥を利用した農家からは「化学肥料を3割程度削減できる」とのコメントをいただきました。
- 今後も、堆肥を活用した展示ほを設置するなど、環境に配慮した生産を促進していきます。



ほ場検討



ペレット堆肥 (左から鳥、豚、牛)
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 那須地域における稲WCS等飼料作物の生産利用拡大研修会を開催(那須地域)

- 令和6(2024)年12月、水田における飼料作物の生産・利用拡大に向けた研修会を開催し、80名が参加しました。
- 山形大学農学部 浦川修司教授による講演の後、作物を生産する耕種農家と給与する畜産農家によるパネルディスカッションでは、活発な意見交換が行われました。
- 耕畜連携による飼料作物の生産利用の体制を構築し、水田の有効活用と飼料の安定確保を図ることで、耕種、畜産両者の経営の安定化を目指します。



講演の様子



パネルディスカッションの様子
(那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤ 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 那須管内で繁殖・肥育された黒毛和牛が、全農枝肉共励会で最優秀賞を獲得(那須地域)

- 「第26回全農枝肉共励会」において、JAなすの肥育牛部会長・佐藤和徳氏(大田原市)の出品牛が黒毛和種・去勢部門にて最優秀賞を獲得しました。
- 出品牛は、寺崎康人氏(那須塩原市)が育成し、佐藤氏が肥育素牛として矢板家畜市場で競り落とした、那須管内で繁殖・肥育された純那須地域産です。
- 肥育期間中は関係者による巡回や超音波肉質診断を行い、詳細な飼養管理指導を行いました。
- 今後も世界に誇れる那須ブランドを目指し、関係者と連携しながら、地域の畜産振興を推進していきます。



最優秀賞の枝肉と佐藤氏



最優秀賞となった肥育牛
(那須農業振興事務所)

○ 粃米サイレージ(SGS)の生産調製・流通体制整備の支援(安足地域)

- 約17haのWCS用稲の収穫作業を受託するコントラクターは、今年度から作業の作期分散を目的としてSGSの生産調製・流通業務に新たに取り組むこととなりました。
- コントラクターは県の持続的畜産経営推進事業を活用したSGS調製用の機械の導入支援や研究機関等の助言・協力によりSGSの生産調製体制を確立しました。
- 今後は、SGSの地域内利用を推進し、飼料自給率向上を目指します。



SGS調製風景



粉碎後の粃米
(安足農業振興事務所)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 「いちご王国」プロモーションの実施

- 「いちご王国・栃木」の全国的なイメージ定着を図るため、県内のほか首都圏や関西圏においてプロモーションを実施しました。
- 県内では「いちご王国・栃木の日」記念イベントを開催したほか、「大切な人にいちご♡を贈ろう運動」キャンペーンを実施し、計3,187名の方から応募がありました。この他、首都圏駅商業施設の飲食店でのメニューフェアや大阪市内PRイベントを実施し、県産いちごの魅力を発信しました。
- 今後も「いちご王国・栃木」の魅力を発信し、多くの方に県産いちごの魅力をPRしていきます。



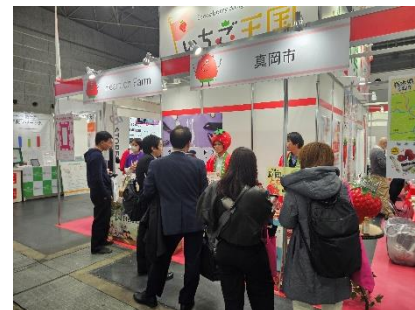
「大切な人にいちご♡を贈ろう運動」キャンペーン



首都圏でのメニューフェア
(経済流通課)

○ 関西での食品展示商談会に出展

- 関西圏における県産農産物の認知度向上と販路拡大を図るため、関西での食品展示商談会「FOOD STYLE Kansai2025」に栃木県として出展しました。
- 展示会には自治体を含む10団体が出展し、いちごや米、チーズ、いちご加工品等の本県を代表する農畜産物等をバイヤー等の来場者にPRしました。
- 2日間で商談件数は92件、成約件数は7件となり、本県農畜産物等の販路拡大に繋げることができました。



「FOOD STYLE Kansai2025」
栃木県ブースの様子

(経済流通課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 物流2024年問題への対応に向けた連絡会議を開催

- ・ 物流2024年問題における県産農産物の安定的な物流体制を確保することや、首都圏近郊に位置する強みを生かした競争力強化について検討を行うため、「とちぎの園芸流通対策連絡会議」を全3回開催しました。
- ・ 会議では現状や課題の共有の他、物流効率化システムに係る講演や鮮度保持技術の実証試験を行い、本県として重点的に取り組む課題を設定しました。
- ・ 物流2024年問題に対応するため、今後も課題解決に向け各種支援策等に取り組みます。



連絡会議



鮮度保持技術の実証試験
(経済流通課)

○ 「新鮮さ」を前面にしたプロモーションを実施

- ・ 大消費地である首都圏に近い地理的優位性を生かした県産農産物の有利販売を図るため、首都圏量販店やタワーマンションロビー等で「新鮮さ」を前面に押し出した産直フェアやマルシェを開催しました。
- ・ 新鮮ないちごや野菜などを販売し、購入されたお客様からは「新鮮でおいしい」、「いちご以外にも多くの品目があって驚いた」、「近県なのでたくさん届けて欲しい」などの声が集まりました。
- ・ 今後も、「栃木の野菜は新鮮である」とのイメージが定着するよう、プロモーションを実施していきます。



量販店でのフェア



マンションロビーでのマルシェ
(経済流通課)

(4)選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 「とちぎの星」品質及び認知度向上

- ・ お米マイスターなどによる「とちぎの星」賞味会の開催やシェフによる商品の試作などを行ったところ、「とちぎの星」は粒が大きく、歯ごたえがあり、おいしいと高評価をいただきました。
- ・ また、「とちぎの星」を中心とした県産米の魅力を消費者や実需者へ発信しているお米マイスターの株式会社シブヤ(千葉県)の澁谷梨絵氏と、山下食糧株式会社(大阪府)の山下治男氏にとちぎ未来大使を委嘱しました。
- ・ 今後は、両氏と連携し、更に県産米の認知度向上・消費拡大に取り組みます。



賞味会の様子



(左)山下治男氏、(右)澁谷梨絵氏

(生産振興課)

○ もち絹香の消費拡大PR

- ・ 「もち絹香」の生産・需要等に係る情報交換・情報発信や、推進リーフレットの作成、イベント等を活用したPR活動により、生産と消費の拡大に取り組みました。
- ・ 全国産業教育フェアにおいては、全国高校生クッキングコンテストが開催され、テーマ食材に「もち絹香」が選ばれました。
- ・ 各出場校からは、「もち絹香」のつぶつぶした食感を活かしたスイーツや、もちもちとした食べ応えに着目したバーガーなど、創作的なアレンジレシピが提案されました。
- ・ 全国に向けた認知度向上や、新たなレシピ提案による消費拡大が図られました。



栃木県出場校の作品「もち絹香バーガー」

(生産振興課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 「花と苺のフェスティバル」を開催

- 若い世代を中心とした県民に、花の持つ癒やしや安らぎを体感してもらう他、いちごなど県産農産物の魅力を再発見してもらうことを目的に、「花と苺のフェスティバル」を県庁で初めて開催しました。
- 当日は、花の飾花展示や体験教室、農産物等の販売に加え、栃木県花の展覧会を併せて開催しました。子どもから大人まで多くの来場者が訪れ、県産花きをはじめとした農産物に親しんでもらうことができました。
- 今後も、花やいちごの魅力を県内外に発信し、消費の拡大につながる取組を実施していきます



フラワーディスプレイ



ステージイベント
花活パフォーマンス
(生産振興課)

○ 日光産米のブランド化(上都賀地域)

- 日光市で特色ある米生産の取組が行われています。
- 日光産コシヒカリ「しやりまんてん」は、東武鉄道の特急スペーシアでの毎週配送や、都内ホテルのレストランでの継続的な利用が始まりました。
- また、特別栽培米は県内スーパー等の付加価値商品として販売されたほか、地元直売でも過去最高の売上高を記録しています。
- さらに、地元食品企業との契約栽培による加工用「きぬはなもち」については、令和6(2024)年産は生産者16名、作付面積34haとなり、今後の更なる取組拡大が期待されています。



日光特別栽培米研究会現地
検討会



加工用「きぬはなもち」
現地検討会
(上都賀農業振興事務所)

(4)選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 第11回那須地域良食味米コンクールを開催（那須地域）

- ・ 那須地域のお米のPRやブランド力向上に向け、「那須地域良食味米コンクール」を開催したところ、「コシヒカリ部門」、「とちぎの星・その他良食味米品種部門」合わせて83点の応募がありました。
- ・ 食味審査の結果、アーデルファーム株式会社（那須塩原市）が2年連続で最優秀賞を受賞し、“殿堂入り”となりました。
- ・ 今後もコンクールを開催を通じて、那須地域の美味しいお米をPRしていきます。



各受賞者



優良事例の紹介
(那須農業振興事務所)



(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

② 農産物の輸出拡大

○ 輸出拡大に向けたプロモーションの実施

- 県産農産物の更なる輸出拡大に向け、東南アジアや、香港、台湾、EUなどにおいて、いちご、梨、コメなど県産農産物のプロモーションを実施しました。
- 特に台湾向けのいちごは、産地の取組を支援したことで出荷量が増加し、プロモーションとの相乗効果により、輸出量が大幅に増加する見込みとなりました。
- また、オーストラリアの見本市出展による県産牛肉のテストマーケティングや、海外のインフルエンサーによる県産いちごの魅力の情報発信等の新たな取組により、今後の更なる輸出拡大が期待されます。



海外インフルエンサーによる情報発信



台湾における青果物プロモーション

(経済流通課)

○ オーストラリアにお米を初輸出(河内地域)

- JAうつのみやは、宇都宮市産コシヒカリのブランド米「みやおとめ」を、栃木県初となるオーストラリアに輸出しました。
- 「みやおとめ」は、現地の小売店やオンラインショップで販売され、バイヤー及び消費者からの高い評価により、全量完売しました。
- 今後も生産者の所得向上やブランド化に向け、輸出をはじめとする各種マーケティングに取り組んでいきます。



出発式の様子



Utsunomiya Miyatome 5kg

現地オンラインショップ
(河内農業振興事務所)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

② 農産物の輸出拡大

○ 台湾・ブラジルに向けた「とちぎの星」の輸出（芳賀地域）

- 米の販路拡大に向けた取組として、農業者団体2団体を支援しました。
- 台湾向けには、台北市のデパートで開催された日本新米フェアにおいて、真岡市産「とちぎの星」を販売・PRしました。
- また、ブラジル向けには、田植えの作業風景やご飯の炊き方を紹介する動画のQRコードを米袋に付けることで益子町産「とちぎの星」をPRしました。
- 今後も、輸入事業者の評価等を参考に県産農産物の更なる輸出拡大に向けた取組を支援していきます。



台湾輸入事業者による
米の試食（真岡市）



ブラジル向け米袋（益子町）
（芳賀農業振興事務所）

○ 農産物輸出の取組を支援（下都賀地域）

- 下都賀管内では、販路拡大の手段として、いちごなどが東南アジアを中心に輸出されています。
- 令和6（2024）年度では、生産者からの要望により、いちごやほうれんそう生産者などの4団体の輸出に向けた取組を支援しました。
- 「ほうれんそう」のテストマーケティングでは、輸送時の荷姿の様子や輸送方法、現地バイヤーの評価などを調査しました。
- 今後も生産者の販路拡大や継続的な輸出につながるよう支援していきます。



現地到着時の荷姿の様子



テストマーケティング
実施生産者のほ場

（下都賀農業振興事務所）

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

③ 次世代を見据えた研究開発の推進

○ 西日本における「とちぎの星」栽培試験の実施

- 夏の猛暑の常態化が懸念されるなか、安心して水稻を作付してもらうためのデータの収集を目的に、西日本を中心とした4県で、栃木県育成品種「とちぎの星」の高温耐性を評価する栽培試験を実施しました。
- 試験の結果、「とちぎの星」は「コシヒカリ」に比べ、品質・収量ともに、優れた品種特性を発揮しました。
- 現在の栃木県における高温条件であれば、「とちぎの星」を用いることで品質・収量を十分確保できることから、県南地域を始め、更なる作付拡大を図ります。
- また、将来の更なる気温上昇を見据え、より強い高温耐性を備えた新品種の開発を進めます。



成熟期頃（左：とちぎの星、右：コシヒカリ）



試験の様子
(農政課)

○ あじさいの手まり咲き遺伝子の特定

- 栃木県農業総合研究センターでは、大学等との共同研究により、あじさいの花の咲き方(形や色)をDNAで識別する技術の開発を進めています。
- 共同研究により、世界で初めて「手まり咲き」を決定する遺伝子を特定するとともに、当センターでは、苗の段階から「手まり咲き」を識別できるDNAマーカーを開発しました。
- この成果を活用し、希少性・商品性の極めて高いあじさい新品種を、効率的に育成することが可能になりました。



ジュエリーポップ



パラソルロマン

(経営技術課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

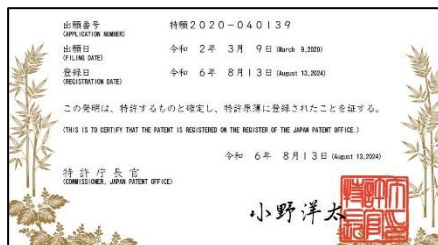
③ 次世代を見据えた研究開発の推進

○ チーズの研究成果が特許登録されました

- 畜産酪農研究センターでは、平成29(2017)年からセンター内の加工施設を利用し、酪農県ならではのチーズ製造に関する研究を実施しています。
- この度、農研機構や小山高専等と協力して開発した乳酸菌と、その菌を用いたチーズの製造方法について共同で出願していた特許が令和6(2024)年8月に登録されました。
- 今後も、チーズに関する研究を通じた生乳の消費拡大と酪農家の所得向上を目指します。



センターで
製造したチーズ



特許証 (一部)

(畜産酪農研究センター)

